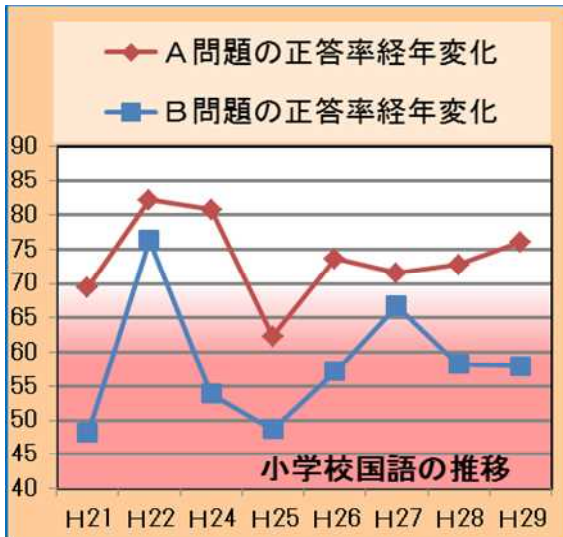


平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント



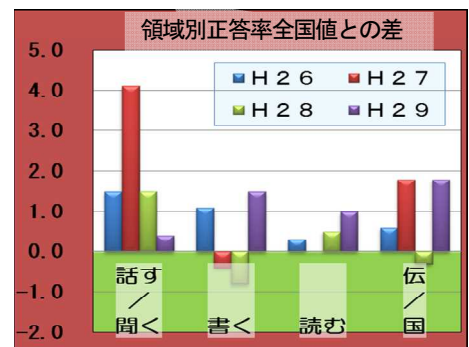
| 小学校：国語A | 平均正答率 (%) | | |
|----------------------|-----------|------|-----|
| | 大分県 | 全国 | 差 |
| 国語A全体 | 76 | 74.8 | ... |
| 話すこと・聞くこと | 69.6 | 69.2 | 0.4 |
| 書くこと | 62.1 | 60.6 | 1.5 |
| 読むこと | 71.2 | 70.2 | 1.0 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 79.8 | 78.0 | 1.8 |

| 小学校：国語B | 平均正答率 (%) | | |
|----------------------|-----------|------|-----|
| | 大分県 | 全国 | 差 |
| 国語B全体 | 58 | 57.5 | ... |
| 話すこと・聞くこと | 65.0 | 64.9 | 0.1 |
| 書くこと | 54.7 | 53.4 | 1.3 |
| 読むこと | 49.7 | 49.2 | 0.5 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 設問なし | | |

小学校：国語A

全問題数：15問（選択式9問・短答式6問・記述式0問）

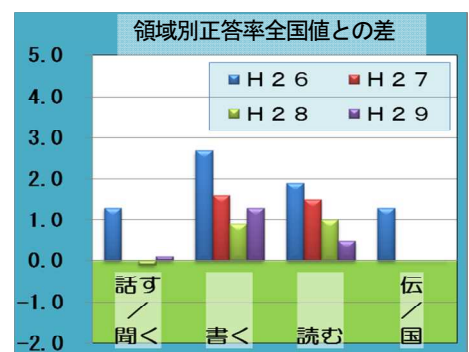
- ・県平均正答率76%（選択式72.6%・短答式82.1%）。平成28年度に比べ、正答率は上昇した。また全国値も上回った。
- ・全ての領域、設問において、全国値を上回った。ただし、正答率が7割に満たない設問が3問あった。
- ・特に漢字の書き、手紙文の型式を答える問いなど、習得させるべき内容に関する指導の工夫が引き続き、課題として挙げられる。



小学校：国語B

全問題数：9問（選択式5問・短答式1問・記述式3問）

- ・県平均正答率58.2%（選択式65.3%・短答式67.2%・記述式43.1%）。正答率は昨年度と同じである。また、短答式の設問においては、2.0ポイント全国値を下回った。全ての領域において、全国値を上回っているが、平成26年度に比し、優位性は低い。
- ・全国値を下回った設問が2問、正答率が5割を下回った設問が3問ある。付けたい力を焦点化させ、適切な言語活動を設定した単元の設定が今後とも求められる。



小学校：その他

- ・国語A・Bともに正答率が全国平均以上の児童は39.8%（H28年度46.2%、H27年度51.9%）、A・Bとも平均未満の児童は32.3%（H28年度27.5%、H27年度25.0%）と、中間層以下が継続的に増加傾向にある。
- ・児童質問紙の国語科授業に関する問い（(66)～(77)）において、経年比較すると、改善が進んでいないものも見られる。各地域・学校における授業改善のポイントとすることが求められる。

2 課題が見られた問題と指導改善のポイント

小学校：国語A

(1) 書くこと

①手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する

<指導事項・書くこと5・6年イ> **A②** (正答率43.8%・全国41.5%)

- 手紙の構成を理解し、後付けを書くことができるかどうかをみる設問。手紙の書き方等については、平成21年度、24年度にも出題されており、引き続き課題があると言える。
- 解答類型2の反応率は22.2%、解答類型3の反応率は24.4%である。これらは、自分の名前を手紙の最後に書くべきと考えたためと思われる。
- 本問に必要な知識を得るには、書く目的や意図、相手に応じ、文章の種類を選択し、文章全体の構成を考えながら適切に書く力を付ける言語活動が必要である。

The diagram shows a letter structure with four numbered options (1, 2, 3, 4) for the back of the letter (後付け). Option 1 is '自分の名前' (My name), 2 is '相手の名前' (Recipient's name), 3 is '相手の名前' (Recipient's name), and 4 is '日付' (Date). A sample letter is shown with a red box around the back of the letter. The back of the letter contains the recipient's name (イ), the sender's name (ウ), and the date (ア). A green box highlights the relationship between the sender's name and the recipient's name, stating that the position relationship expresses respect.

ニ 松本さんは、手紙の後付け(手紙の最後に付ける内容)の位置関係が、書き手の敬意を表す。

- 具体的には、実際に案内状や礼状などを地域の方に出す取組等が考えられる。これらの取組は国語科や書写の時間だけでなく、総合的な学習の時間等においても行われることが想定される。また、手紙を書く際は、「前文」「本文」「末文」「後付け」といった手紙全体の構成、署名と宛て名の位置関係といった手紙の形式等の知識についてはオーセンティックな活動を行う中で付いていくが、形式のみを教えるのではなく、例えば、後付けの位置関係が書き手の敬意を表すことになることなども併せて教えることが必要である。

【参照】「平成29年度全国学力・学習状況調査報告書」28・29ページ

(2) 読むこと

①話合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する

<指導事項・読むこと5・6年エ/伝国3.4年(1)ア(ア)> **A④** (正答率58.0%・全国57.0%)

- 俳句の情景を捉えることができるかどうかをみる設問。
- 正答を得るためには【話し合いの様子】中の
 - 中西さんの「作者の伝えたかったことって、今、青木さんが言ったこと」という言葉に着目
 - 青木さんの「そうか。ふいてくる風からも、見ている月からも、ひんやりした秋を感じている」に着目
 - 本間さんの「『ひやひやと』を声に出して読むとひんやりした感じがますます伝わって…」から判断という思考になると考えられる。
- 解答類型4の反応率は29.0%である。これは、【話し合いの様子】の青木さんの発言のみに着目して解答したため、「風」と「秋」から【俳句カード】イの「季語・・・秋の風」の部分のみで判断したためと予想される。

- ・指導としては、俳句に込めた思いなどを思い浮かべること、音読することを通して、文語の調子に親しむことができるようにすること、また、俳句について感じたことを交流することで、想像したことを広げたり深めたりすることが考えられる。
- ・指導の具体として、「言語活動事例集【小学校版】」P.43～P.44を参照のこと。
- ・また、「平成26年度【小学校】授業アイデア例」の「同じ作者の詩を比べて読み、考えたことを伝え合おう」等を参考に授業を構築することなども求められる。

4

中西さんのグループでは、月の様子をよんだ俳句を調べ、その中から選んだ好きな俳句について、学校で紹介しようとしています。次は、選んだ俳句についてまとめた【俳句カード】と好きな俳句を紹介するための【話し合いの様子】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【俳句カード】

| | |
|--|--|
| <p>ア 雷とけてくりくりしたる月夜かな 小林一茶</p> <p>（調べた内容） 季節：雷とけて 季節：春 この俳句は、「寒い冬が終わり、雷がどけ、春が来た。月もきれいで明るくかがやく夜だなあ」とよんでいるそうです。</p> | <p>イ ひやひやと月も白しや秋の風 上島鬼貫</p> <p>（調べた内容） 季節：秋の風 季節：秋 この俳句は、「秋のこちよい月がふく中で、月の色もひんやりと白っぽいなあ」とよんでいるそうです。</p> |
|--|--|

二 中西さんのグループでは、話し合いを通して、自分たちが見つけた俳句のよさについても紹介しようとしています。紹介しようとしている内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

| | | | |
|---------------------|-------------------|---------------------|---------------------|
| 1 言葉のひびきや作者の季節を感じる心 | 2 それぞれの作者の生き方や考え方 | 3 月の形が変化する様子や構成のくふう | 4 季節の使い方や季節から想像したこと |
|---------------------|-------------------|---------------------|---------------------|

【話し合いの様子】

| | | | |
|--|---|--|--|
| <p>1 中西 作者の伝えたいことが、今、香木さんが言ったことなのかもいれないね。このこともみんなに紹介しよう。</p> | <p>2 そうか。ふいてくる風からも、見ている月からも、ひんやりした秋を感じているんだね。</p> | <p>3 本間 イの句の「ひやひや」も「くりくり」と似ているね。どちらも声に出して読んで紹介すると、俳句のよさがもっと伝わりそうだな。（音読） 「ひやひやと」を声に出して読むと、ひんやりした感じがますます伝わってくるような気がした。「白」という月の色も、なんだかひんやりとした感じがする。</p> | <p>北田 アの句は「くりくりしたる」の「くりくり」がおもしろいね。声に出して読んでみるよ。（音読） 中西 リズムよく読めて、読むのが楽しくなるね。「くりくり」というのは、月の（A）を表しているのかな。春になったのがうれしいのかもしれない。</p> |
|--|---|--|--|

【参照】 「平成29年度全国学力・学習状況調査報告書」34～38 ページ

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

①学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。＜指導事項・伝国5.6年(1)ウ(ア)＞

A7 (1) 参加たいしょう (正答率48.2%・全国42.0%)

- ・正答は「対象」である。「対」は書いているが、「しょう」を正しく書いていない児童が14.1%である。これは「対象」「対照」「対称」という「対」を含む同音異義語のそれぞれの言葉を正しく理解していないということも影響していると予想される。
- ・また、「大正」「大賞」「大将」「大勝」等を書いた児童は21.7%、無解答が9.4%である。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字について、意図的・日常的に正しく読んだり、書いたりすること、それらを文や文章の中で適切に使うことができるように指導することが重要である。
- ・昨年度にも以下のように、記載したので、是非参考にされたい。

・また、漢字の書きを習得するためには、ある程度の練習量が必要となる。
漢字を取り立てて指導する時間を設定する、授業時間のはじめに漢字の書きを練習する、家庭学習で漢字の書きの練習をさせるなど、習得のための手立てを学校全体で行って行くことも必要である。

【参照】 「平成29年度全国学力・学習状況調査報告書」46～50 ページ

(1) 話すこと・聞くこと

①スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く
スピーチメモとグループの話合いで出された意見を基に書く

<指導事項・話すこと・聞くこと5・6年イ・ウ/書くこと5・6年ウ>

B 国二・三 (正答率 67.2%・全国 69.2%/正答率 50.5%・全国 48.4%)

1 石田さんは、日本語を学んでいる外国の人たちに、「折り紙」について紹介するスピーチをするため友達に助けしてもらいながら練習しています。次は、「スピーチメモ」「スピーチの練習の様子」「グループの話し合いの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「スピーチメモ」

- 1 折り紙とは、紙を折って、いろいろな形を作る遊び。
- 2 自分の経験(実際に「つる」を見せる)。
- 3 折り紙の例(「風船」「紙飛行機」「手裏剣」など)
- 4 折り紙のみりよくとは
(色やもようがきれいな紙を折って、いろいろな形を作ることができること)
- 5 まとめ
(体験コーナーのしようか)

「スピーチの様子」 動画で記録した様子

石田さんは、折り紙について紹介します。折り紙は、紙を折って、いろいろな形を作る遊びです。子供から大人まで楽しむことができます。

北川は、小さいころにおばあちゃんに教えてもらった「つる」を折るのが得意です。これは、私が折った「つる」です。

上野は、「紙飛行機」などを作ることができます。友達と一緒に作ると楽しいです。

石田は、「折り紙のみりよくは、色やもようがきれいな紙を折って、いろいろな形を作ることができることだ」と私に話します。

北川は、「あの体験コーナーで作り方を教えますので、一緒に作って楽しんでください。私に話して、折り紙の紹介を終わります。」

「グループの話し合いの様子」

北川 石田さんのスピーチ、よかったね。

上野 表情がとっても明るくて、折り紙のことを伝えたっていう気持ち伝わってきたよ。

北川 実物の「つる」を見ているのも、分かりやすかったね。それと、今回スピーチメモを使ってみてどうだったかな。

上野 スピーチメモを使って話のまとまりと順序を意識して話すことはできたかな。

石田 うん、できてたと思うよ。それに、必要ときにだけメモを見ればよかったから、相手の反応を見て話すこともできたと思う。

北川 確かにできてたね。他に気づけたことはあるかな。

石田 全体的に早口だったので、そこを遅らせたかった。

北川 そうだったか。動画を見てみよう。

「動画を見る」

上野 そうだね。日本語を勉強している外国の人にとっては早口かもしれないね。

北川 それから、石田さんが一番伝えたいことが伝わるかどうか大事だね。

石田 私は、折り紙のみりよくを一番伝えたい。

北川 それなら、折り紙のみりよくをもっとたくさん伝えたい方がいいんじゃないかな。

上野 折り紙のみりよくは、「どこでも手軽にできることだ」と思うよ。

石田 「手裏剣」のように、組み合わせて形をつなげられるのもみりよくだね。

北川 折り紙のみりよくは、いろいろな形があるね。みんなの意見を参考に、もう一度考えてみるね。

2つの部分から情報を得る。

- ・設問二は、話の構成を工夫して話したり、聞き手の反応を見て話したりすることができるなどのスピーチメモのよさを捉えることができるかどうかをみる問いである。
- ・正答としては、スピーチメモを使うことで、どのようなことができたかを話している部分の言葉を使えばよい。具体的には、北川さんと上野さんの2つめの言葉から「話のまとまりと順序を意識して話す」「相手の反応を見て話す」を適切に使用するようにする。
- ・正答例としては、上記のうち一つしか使用していないものもある。
(例) 必要なときにだけメモを見て、話のまとまりと順序を意識して話せるというよさがある。
※「相手の反応を見て話す」を使用していない
(例) 話が分かりやすくなり、相手の反応を見て話すよゆうができるのがメモのよさ。
※「話のまとまりと順序を意識して話す」を使用していない。
- ・誤答例としては「話すことを忘れてしまっても、メモを見れば思い出せて、話したいことを伝えられる。」等、【グループの話し合いの様子】の内容を使わず、自分の生活経験のみで答えているものである。
- ・設問三は、「目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことができるかどうかをみる問いである。
- ・正答としては、【スピーチメモ】と【グループの話し合いの様子】の後半の言葉を使用したものであるか、具体としては、「色やもようがきれいな紙を折っていろいろな形を作ることができること」と「どこでも手

二 石田さんたちは、グループの話し合いの中で、スピーチメモを使うことについてどのようなよさがあると考えていますか。【グループの話し合いの様子】の言葉を使って、四十文字以内で書きましょう。

三 石田さんは、友達の助けを受け、「スピーチの練習の様子」の中の条件について、もう一度考えています。石田さんは、どのように話すかよいですか。その内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

「条件」

- 折り紙のみりよくについて、「スピーチメモ」と「グループの話し合いの様子」で出された意見から、それぞれ取り上げて書くこと。
- スピーチとしてふさわしい言葉づかいにすること。
- 書き出しの言葉に続けて、八十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

軽にできる／紙一枚から立体的な形ができる／形を組み合わせてつなげることができる」という点を使用しているか、どうかで判断できる。

- ・指導に当たっては、話の構成や内容を工夫するために、自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、結論付けを明確にしたりすることなどを行うこと。声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体と常体との使い分けなど、その場に応じた最も適切な表現の仕方について学習すること、などが考えられる。
- ・また、本問のように、スピーチメモを活用して話すことができるように指導することも求められる。併せて、「平成25年度【小学校】授業アイデア例」P.9～P.10や過去出題された問い等を、教材の一つとすることも必要である。

【参照】「平成29年度全国学力・学習状況調査報告書」52～63ページ

(2) 書くこと

① [イ] に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く<指導事項・書くこと5・6年ウ>

B2三 (正答率34.1%・全国33.0%)

The diagram illustrates the flow of information in a classroom activity. On the left, a vertical box lists conditions for writing: '水やりが大変な理由を「アドバイス」から二つ取り上げて書くこと。' (Select two reasons for why watering is difficult from the 'Advice' and write them.) and '「緑のカーテン作りへの協力をお願い」にふさわしい表現で書くこと。' (Write in an appropriate expression for the 'Request for cooperation').

In the center, the 'アドバイス' (Advice) section contains a student's text: '去年、わたしたちも緑のカーテンを作ったよ。おかげですずしい夏が過ごせたんだ。でも、水やりがとても大変だったなあ。' (Last year, we also made green curtains. Thanks to them, we had a cool summer. But watering was so difficult.) 'まず、毎朝水をやらないとすぐにかれてしまうんだ。朝、水やりをわすれて、昼休みにあわてて見に行ったらしおれかけていたこともあったよ。' (First, if you don't water every morning, it gets wilted immediately. One day I forgot to water in the morning, and when I went to see it during lunch break, it was wilted.) 'それから、大きな緑のカーテンを作るためには、たくさんの植木ばちをやる必要があるんだ。植木ばちの数はどのくらい大きな緑のカーテンを作るかで変わってくるよ。' (Then, to make a large green curtain, you need many plants. The number of plants changes depending on how large the green curtain you want to make.) '水やりは大変だったけれど、すずしい夏を過ごせて、みんなも喜んでくれて本当にうれしかったなあ。' (Watering was difficult, but we had a cool summer and everyone was happy, so I was really glad.) '何かこまごますることがあったらいつでも相談にのるよ。がんばって作ってね。' (If there's anything small, we'll help you anytime. Let's make it with effort.)

On the right, the '緑のカーテン作りへの協力をお願い' (Request for cooperation) section contains a teacher's text: '緑のカーテンとは 夏が来ると、教室が暑くなってこまごますることはありますか。わたしたちは、それを解決するために緑のカーテンを作ることになりました。緑のカーテンとは、まどの外に植えたアサガオなどの植物で、たもです。緑のカーテンを作ると、まどが涼しくなるといわれています。もしも、めればよいという人もいるかもしれませんが、カーテンを使うと布のカーテンよりも室温が下がります。例えば、『緑のカーテンを始めよう』という本には、「ア」が書かれています。緑のカーテンは、夏をすずしく過ごすための工夫の一つなのです。' (Green curtains are plants like morning glories planted outside the window. They help cool the room. It's said that green curtains can cool the room. Even though some people say it's better to open the window, using curtains can lower the room temperature. For example, in the book 'Let's start green curtains', 'A' is written. Green curtains are a way to enjoy a cool summer.) '緑のカーテンの作り方 わたしたちは、できれば1階から3階までの全教室をおおうように緑のカーテンを作りたいと考えています。そこで、次のように作ろうと思っています。' (We want to make green curtains covering all classrooms from 1st to 3rd floor. So, we are planning to make them like this.) '1 大きな植木ばちを用意し、肥料と水やりを怠らなくする。' (Prepare large plants and don't neglect fertilizer and watering.) '2 水やりが楽になるように、水やりが楽になるようにする。' (Make watering easier.) '3 大きくなったら先の芽を切る。' (When they grow large, cut the buds.) '4 芽が分かれてのびてきたらネットにまきつける。' (When buds branch out, cover with net.) '5 7月になったら肥料を追加する。' (Add fertilizer in July.)

At the bottom, the '2' (Response) section contains a student's text: '水やりに協力してくれる人をほめます。大きな緑のカーテンを作るためには水やりが大切です。しかし、水やりはとても大変です。' (I praise people who cooperate with watering. Watering is important for making a large green curtain. However, watering is very difficult.) 'イ' (I) 'このように水やりはとても大変なので、たくさんの人の協力が必要です。協力してくれる人はわたしたちに声をかけてください。ぜひいっしょに大きな緑のカーテンを完成させ、全校ですずしい夏を過ごしましょう。' (Because watering is so difficult like this, we need the cooperation of many people. Please let us know if you can cooperate. Let's finish the large green curtain together and enjoy a cool summer in the whole school.)

Annotations include: '二箇所から理由を探す' (Search for reasons from two places) pointing to the first two paragraphs of the advice; '条件に沿った答え方を考える' (Consider the answer method according to conditions) pointing to the student's response; and '水やりに協力してくれる人をほめます' (Praise people who cooperate with watering) pointing to the first sentence of the response.

- ・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く力を見る問いである。
- ・正答としては、緑のカーテンを作ったことのある中学生の【アドバイス】から、水やりが大変な二つの理由と、それぞれの理由を説明する事例を区別し、必要な内容を整理して簡潔に書く必要がある。
- ・水やりが大変だった理由の一つ目は【アドバイス】の2段落にある。
理由①… ○「毎朝水をやらないといけない」 ×「水やりを忘れたら、しおれかけていた」
理由の二つ目は、3段落にある。
理由②… ○「たくさんの植木ばちにやる必要」 ×「植木ばちの数で緑のカーテンの大きさが変わる」
これらの理由を適切に使用し、【緑のカーテン作りへの協力をお願い】にふさわしい表現にすることが必要になる。
- ・誤答としては、
(誤答例1) 毎朝水をあげないとすぐにかれてしまうからです。朝水やりをわすれるとしおれかけることもあるからです。…「たくさんの植木ばちに水をやること」を入れていないもの (27.2%)
(誤答例2) 毎朝水やりをしないとすぐにかれてしまうし、昼に見に行ったらしおれてしまっていたから。

…「たくさんの植木ばちに水をやること」がなく、【緑のカーテン作りへの協力のお願い】にふさわしい表現でないもの (8.7%)

(誤答例3) 1日1回だけでも水をあげないとしおれてしまうからです。だから水が必要なのです。

…水やりの大変さだけを書いているもの (9.8%)

などがあり、ここから、必要な情報を適切に取り上げる力や、条件に沿って文を書く力を付けるための指導がますます重要になってくることが分かる。

・なお、同様の単元を構築するために、

「平成24年度【小学校】授業アイディア例」P.2

「平成25年度【小学校】授業アイディア例」P.9～P.10, P.11～P.12

「平成26年度【小学校】授業アイディア例」P.11～P.12

「平成27年度【小学校】授業アイディア例」P.5

等を参考にすることが望まれる。

【参照】「平成29年度全国学力・学習状況調査報告書」70～73ページ

(3) 読むこと (書くことを含む)

①文章を読んだあとの話し合いにおける発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する文章から取り上げた言葉や文を基に、登場人物がきつねだと考えたわけをまとめて書く<指導事項・書くこと5・6年ウ/読むこと5・6年エ・オ>

B3 二二 (正答率 26.8%・全国 28.0%/正答率 44.6%・全国 43.7%)

| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>4 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめようとしている。</p> <p>3 今まで出ていない考えを引き出そうとしている。</p> <p>2 言葉の意味が理解できず、その意味を知ろうとしている。</p> <p>1 考えのよくなる文章中の表現を明らかにしようとしている。</p> | <p>二 【話し合いの様子の一部】の中の……部ア・イの発言は、この話し合いの中で、それぞれどのような意図がありますか。最も適切なものを、次の1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。</p> | <p>3</p> <p>大岩さんの学級では、あまんきみこさんが書いた「きつねの写真」という題名の物語を読み、それが考えたことについて、文章中の表現を示しながら話し合っています。次は、「物語の一部」と【話し合いの様子の一部】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。</p> <p>■物語のこれまでのあらすじ こんざ山に、松ぞうじいさんが孫のどび吉と二人で住んでいました。そこに、山野さんという新聞記者がきつねの写真をとりに来ました。</p> <p>【物語の一部】①・②・③・④・⑤の内容は、あとの【話し合いの様子の一部】で取り上げられます。</p> | <p>【話し合いの様子の一部】</p> <p>あまんきみこ「きつねの写真」による。</p> <p>原 横山 あまんきみこさんの「きつねの写真」を読んで、心に残ったところはどこかな。</p> <p>原 (A)を示しながら「あたりの水がいっせいにさざつとゆれてよびました」というところで「A」感じがすると思ったんだけど。</p> <p>大岩 そうだね。A ことといえば、松ぞうじいさんとどび吉はきつねだったのかな。</p> <p>田中 二人を写したはずの写真にきつねが写っていたんだから、きつねだよ。</p> <p>原 ①からそう思うの？</p> <p>田中 (B)を示しながら「山野さんは、おかいあったりをばちりとうつしました」とあるでしょ。</p> <p>横山 そうだね。それに、(E)を示しながら「きつねの写真だ」と書いてあるしね。</p> <p>原 二人を写したはずの写真にきつねが写っていることは、やっぱりきつねなのかな。</p> <p>きつねだよ。他にもきつねって考えられるところはあるかな。</p> <p>大岩 (C)を示しながら「……松ぞうじいさんが『うてきなせえ』と言っているところがあるでしょ。私は、ここからきつねってわかる気がするんだけど、どうかな。</p> <p>田中 私もそう思う。松ぞうじいさんは、きつねだからきつねのすんでいた穴の場所を知っていて、案内できたんだよね。田中さんの言いたいことはそういうことではないのかな。</p> <p>原 そうそう。</p> <p>横山 (D)を示しながら「ここにもあるよ。『人間にうちとられたり』と書いてあるけれど、もし、松ぞうじいさんが本当に人間なら、『人間に』とか『うちとられた』とは言わな</p> <p>田中 と思うから、松ぞうじいさんがきつねだと考えられることもできるね。</p> <p>原 そこからも、松ぞうじいさんがきつねだと考えられるね。他にも見つけたよ。</p> |
|--|--|--|--|

- ・設問二は、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることができるかどうかをみる設問。
- ・アは田中さんの意見を受けて「どこからそう思うの」と問う形になっているので、その意見の根拠を問う問いかけと言える。イは田中さんの意見に同意し、しかもその意見を補完する働きをする意見を加えている。それに対して「田中さんの言いたいことはそういうことではないのかな」という言葉になっているので、田中さんの意見に対する自分の理解が正しいかということを問う働きとなる。
- ・解答類型からイは正答であるが、アの解答を「1」としていないものが45.9%である。例えば「どこからそう思うの」という疑問文の形になっているために「理解できず」という言葉が入った「2」を選択した児童が多かったためと想定される。

- ・設問三は、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問いである。
- ・正答の条件は、設問中〈条件〉に見られるもののほか、【話し合いの様子の一部】の最後の田中さんの言葉「他にも見つけたよ」から話し合いの中で既に挙げられている部分を選んではいけないということが考えられる。
- ・このような隠された条件を読み落としたため【話し合いの様子の一部】で取り上げた叙述を取り上げた児童が14.0%いる。
- ・また、誤答として、
山野さんがきつねの写真をとりたいたったあとに、「そこまできくと、松ぞうじいさんの目に、なみだがきらりとひかりました」と書いてあるから、松ぞうじいさんはきつねだと考えることができるよ。(24.2%)
というものがある。これは、「取り上げた言葉や文をもとに、どうして松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えるのか」を書くことができていないものである。
- ・指導として、考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら交流する機会を設定することが考えられる。そうすることが自分の考えを広げたり深めたりすることにつながっていくと児童が実感できるように指導することが大切である。
- ・また、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる際、その叙述を見付けるためには、場面の展開に沿って、登場人物の言動や心情の変化を捉えて読む必要がある。色や情景などの描写から受けるイメージを交流することなどが考えられる。
- ・さらに、物語全体を見通すことができるような学習シートを用いたり、感想を記入したカードやノートを活用したりしながら、どの叙述に着目したのかを明確にすることができるよう指導することが考えられる。
- ・「平成25年度【小学校】授業アイデア例」P.13～P.14
「平成26年度【小学校】授業アイデア例」P.8
などを参考に単元構成を図ることが重要である。

三 【話し合いの様子の一部】の中の「B」のところで、田中さんは、「物語の一部」の言葉や文を取り上げながら、松ぞうじいさんやとび吉がきつねであると考えたわけを話しています。あなたが田中さんならどのようなわけを話しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

○ の横山さんのように、「物語の一部」から言葉や文を取り上げて書くこと。

○ 取り上げた言葉や文をもとに、どうして松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えるのかを書くこと。

○ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【参照】「平成29年度全国学力・学習状況調査報告書」74～81ページ

※「国語B」と児童質問紙から考えられること。

| | 質問と肯定的な回答の割合 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 |
|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|
| 66 | 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか | 57.7% | 59.5% | 64.1% | 65.9% | 66.8% |
| 67 | 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか | 54.3% | 56.2% | 58.5% | 60.2% | 61.3% |
| 68 | 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか | 67.8% | 70.2% | 71.9% | 72.5% | 72.9% |

児童質問紙から、小学校国語の授業改善に対する指導者の意識は着実に高まっていると判断できるがそのスピードが鈍化している。B問題の記述式の設問については、正答率が70%を超えていないことから、記述の中に必要な情報が入っているのかなどを、的確に指導することが必要である。また、必要な情報は文章中のどこにあるのかを素早く見付ける力を付けることも必要であり、そのため、ある程度の字数のまとまった文章を、目的をもって読ませる指導が必要と言える。そういった意味で広い意味での読書指導が重要であるが、質問紙(72)「読書は好きですか」に肯定的な回答の児童が昨年よりも減少したことは、大きな課題と言える。

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

（1）これからの国語科の授業づくりの基本的な考え方

①主体的・対話的で深い学びを促すために、以下の8点について留意し、単元構想と授業実践を行うことが大切である。

- ①児童が興味をもつ教材・題材
- ②魅力的な課題の提示、児童生徒による課題の発見
- ③学習の見通し、本時の目標（めあて）の明示
- ④課題解決的な学習、既習事項を活用する学習
- ⑤自分の考えを発表・交流する機会
- ⑥「できた」「わかった」の実感
- ⑦「できたこと」「わかったこと」の振り返り
- ⑧日常生活、社会生活への広がり

②国語科は、児童に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。学習指導要領改訂後も、国語科の言語活動で育成した言語能力は、他教科の基幹になることは言うまでもなく、今後とも更なる言語活動の充実を図り、不断の授業改善を推進していくという方針は不変である。

※昨年度も記載したが、伝統的な言語文化や国語の特質に関する事項（漢字、語句、文法等）を学ばせる際、取り立て指導や帯単元を設定し指導することは有効な手段である。

| 種別 | 番号 | 質問事項 | H28 | H29 |
|-------|----|---|-------|-------|
| 学校質問紙 | 69 | 調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか | 97.5% | 98.4% |

であった。その取組を有効にするためには、①児童の学習課題の検証、②それを基にした指導のコンテンツの選択、③指導事項の定着のための手段の構築とその継続が求められる。

※基礎基本の積み上げだけでは活用する力は向上しないことは言うまでもない。

③小学校国語科においては、以下のような問題点が一部実践において見られる。

(A) 主に言語活動に関すること

(a)付けたい力を付けるのに適切な言語活動と言えないものがある。

▼付けたい力と言語活動との領域のミスマッチが見られる単元

▼主たる学習活動の設定時間数の不足した単元

(b)教材の特性や活動の必然性を考慮しない言語活動がある。

▼意図のない、場面ごとの詳細な読解の実施

▼児童の関心・意欲を引き出す観点から本当にその活動が必要なのかの吟味が必要

(B) 主に評価に関すること

(a)付けたい力と言語活動との領域のミスマッチのため、評価規準が適正と言えない。

(b)本時の評価規準が具体的でない。

▼評価の場面は1時間で1、2箇所が妥当であるが、そうならない時間

▼評価規準、評価の方法や場面が、具体的でない。

▼単元の評価規準→指導過程（指導計画）の評価規準→本時の評価規準の不整合。

(c)「C努力を要する状況」の児童生徒の見取りができにくい。

▼見取りができにくいいため、その子どもたちに対する指導・支援が未設定

④それらの解決のための基礎作業として、教育課程編成時に、

- ①マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること
- ②学習指導要領の言語活動例を確認すること

の2点は、必ず行うべきものである(①は年度内に随時見直しを行うことも重要)。

⑤具体的な言語活動や付けたい力をイメージするために、国立教育政策研究所が作成した

- ・「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/>
- ・「小学校国語科映像指導資料～言語活動の充実を図った『読むこと』の授業づくり～」
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>
- ・「平成28年度『小学校学力向上対策支援事業』 個に応じた指導の手引き 小学校 国語科・算教科編」
等をヒントにすることも必要である。



(2) 国語科授業改善の方向性

新しい学習指導要領を鑑み、これまでの国語科の授業を振り返ったうえで、国語科の授業改善の方向性を以下に示す。

①適切な言語活動の設定とその充実

具体的には、以下の点に留意し、実践することが求められる。

- ①付けたい力を付けるにふさわしい言語活動であるか
- ②多様な図書資料等が有効に活用されているか

- ・目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等(書籍、新聞、その他のメディアからの情報)を用いることが必要である。

| 種別 | 番号 | 質問事項 | H28 | H29 |
|-------|----|--|-------|-------|
| 学校質問紙 | 22 | 前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか | 50.4% | 48.1% |
| | 68 | 国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか | 92.7% | 92.6% |
| 児童質問紙 | 19 | 昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか(週1以上) | 24.8% | 22.2% |
| | 45 | 新聞を読んでいますか(週1以上) | 19.7% | 17.7% |

- ・多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分を詳細に分析する読みの指導が可能となる。
- ・また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づ

けて読むことに指導に当たることが必要である。

- ・学習指導要領の言語活動例を参考にし、情報を活用して、条件に応じて自分の意見や考えを表現する活動の充実を図るとともに、考えを深めたり広げたりする「交流」の場面を単元の中に効果的に位置付ける指導が求められる。
- ・以上のことを鑑み、児童自ら多様な図書資料を手にとるようになるため、新聞の購読や学校図書館の整備等、学習環境の充実を図るとともに、不読者をゼロに近づける取り組みが必要である。

県学力定着状況調査質問紙 「あなたはこの1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。」（単位は%）

| | 0冊 | 1~2 | 3~4 | 5~6 | 7~8 | 9~10 | 11~20 | 21~30 | 31以上 | その他 |
|---------|-----|------|------|------|-----|------|-------|-------|------|-----|
| 県(29年度) | 6.5 | 15.1 | 15.7 | 13.9 | 9.8 | 12.1 | 11.9 | 5.7 | 8.8 | 0.5 |
| 県(28年度) | 9.7 | 16.3 | 15.4 | 13.1 | 8.2 | 11.6 | 10.3 | 5.7 | 9.4 | 0.5 |
| 県(27年度) | 9.1 | 16.4 | 15.5 | 12.2 | 8.3 | 11.5 | 10.3 | 5.7 | 10.6 | 0.3 |
| 県(26年度) | 9.9 | 15.7 | 15.5 | 13.2 | 7.8 | 11.2 | 10.1 | 5.7 | 10.4 | 0.5 |

この数年横ばいであった不読者層が、今年度大幅に減少している。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、豊かな思考には豊かな語彙形成が不可欠であり、それを促すという視点で読書指導を見直すことも必要である。

- ・また、言語活動を取り組むために必要な事典や辞書が児童生徒の手に取りやすい場所に設置することも必要である。



③既習事項（または知識・技能）を活用する言語活動であるか

④③のために知識・技能の確実な定着を図っているか

⑤児童の興味関心を喚起する言語活動であるか

- ・興味関心を喚起する言語活動を行えば、学びに向かう力につながるその教科の学習が「好き」という気持ちが強くなっていく。
- ・以下の児童質問紙の結果から、小学校での指導が子どもたちの興味関心を喚起するものになっていると言える。

| 種別 | 番号 | 質問事項 | H28 | H29 |
|-------|----|-------------|-------|-------|
| 児童質問紙 | 69 | 国語の勉強は好きですか | 56.7% | 60.8% |

⑥発表や交流活動を設定した言語活動であるか

| 種別 | 番号 | 質問事項 | H28 | H29 |
|-------|----|---|-------|-------|
| 児童質問紙 | 68 | 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか | 66.5% | 65.7% |
| | 74 | 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか | 65.9% | 66.8% |

- ・交流に際し、話し合う活動は、現在大分県の教室でよく行われている。しかし、本当に話し合いが必要であるのか、必要であるならば、どのような形式の話し合いが必要であるのか、ということを吟味した上で行うべきである。
- ・話し合う手段をとる際に、何の力を高めるために行うのかということを、児童自身にも自覚させる

ように心がけたい。

- ・また、発表の際、ただ原稿を読み上げるようなものになっていないか、ということも重要な指導のポイントである。発表の原稿作りをすることも非常に有効な手段であるが、例えば、メモをもとに発表する、ということも活用する力を高める上で非常に重要である。

②児童生徒の主体的な学びを促す「めあて」等の設定、指導に生かすことができる「より具体的な評価規準」の設定

具体的には、以下の点に留意し、実践することが求められる。

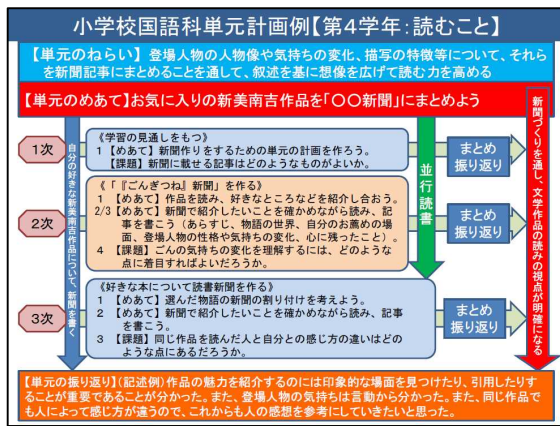
①適切な「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定があるか

- ・以下の資料を参考にして、設定をすること。

「児童生徒の主体的な学びを促す『めあて』『課題』『まとめ』『振り返り』の設定例」

「主体的・対話的で深い学びを実現するための単元（題材、主題）計画 例」

<http://kyouiku.oita-ed.jp/gimu/2017/05/291.html>



| 国語 | | 【国語科小学校第4学年読むことと交流の指導例】 |
|--------|--|---|
| 単元のねらい | | 叙述をもとに自分の言葉でまとめ直すことで、登場人物の人物像や気持ちの変化等について読む力を高める。 |
| 単元のめあて | | お気に入りの新美南吉作品を「〇〇新聞」にまとめよう。 |
| 課題 | | ごんのお気持ちの変化を理解するには、どのような点に着目すればよいか。 |
| 展開 | | ごんのお気持ちの変化が分かる部分の共通点を探る ①ごんのお気持ちが大きく変化したと考えられる部分に線を引く（個→全体） ②線部にそれぞれどのようなお気持ちの変化があったのか、どうしてそう思ったのか、発表する。 ③お気持ちの変化が分かる部分の共通点を考える。 |
| まとめ | | 登場人物のお気持ちやその変化を探るためには、その言葉や行動に着目すると良い。 |
| 振り返り | | ○本時でどのようなことが分かったのか（できるようになったのか）、自分の学びを確認させる。 ○本時の学びを今後の学習にどのように生かしていくのかを考えさせる。 |

②指導事項・指導領域・評価の焦点化が見られるか

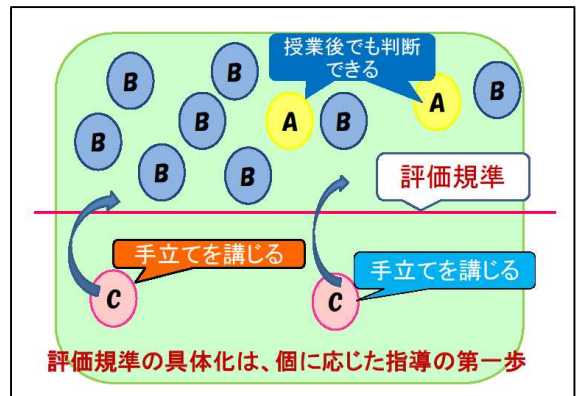
③単元・指導過程・本時の評価規準に整合性があるか

- ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準（概ね満足できる状況）を設定することが求められる。

④「おおむね満足できる」状況が具体的に想定され、それを判断する場面や方法は適切であるか

⑤「C 努力を要する状況」の児童生徒への指導や支援は行われているか、またその方法（手段）は、有効であるか

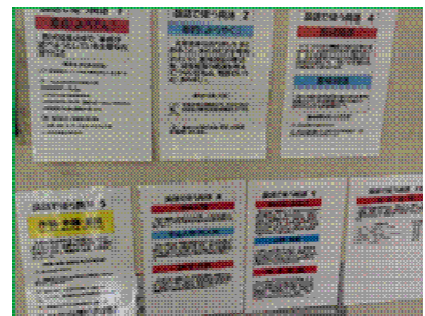
- ・具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。



(3) その他、国語科授業で取り組むべきこと

- ①必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。また、どのように思考するのかをきちんと理解させるためにも、例えば「修飾する」「引用」「要約」「要点」とはどのようなことであるのかを理解しておく必要がある。

- ②少なくとも、教科書の巻頭・巻末等にまとめられている学習用語



は、その学年で確実に理解させることが大切で、既習の用語は授業で使い、指導者があいまいな言葉を使わないようにしなければならない。

③学習用語を常に見えるところに掲示し、理解を促す取り組みなども大切である。

④言語活動の成果物を掲示や展示することも効果がある。作成したものを互いに見ることで、励みになるとともに、ものの見方や考え方が広がる契機もなる。

(4) 学校全体で取り組むべきこと

①漢字や語句、文法、表現技法等の習得

- ・漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は、一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。家庭学習の課題として、子どもたちに定着のための学習をさせるということも重要であるが、それだけでなく、国語科以外の教科の時間に、既習の漢字を必ず使用するよう指導するというような機を捉えた指導をするようにされたい。

※学校質問紙と児童質問紙との比較を行い、家庭学習が定着しているか、取組の検証を行うこと。

学校質問紙 90～98

児童質問紙 15・16・29～32

②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。司書教諭や学校司書と協力し、バランスのよい読書指導をすることが重要である。
- ・また、学年が上がるに従って、書籍だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館の利活用の推進をしなければならない。例えば、毎日その日の新聞を子どもたちの見えるところに掲示し、自然と情報が目に入ってくる環境を作ることが、その第一歩になる。

(5) 地域や学校で取り組むべきこと

①全国学力・学習状況調査についての研修会

- ・学級担任等が、全国調査の結果分析を行うことはもちろんであるが、これを今後の指導の充実に資するものにするために、学校や地域全体で、情報を共有し、指導改善のベクトルを揃えることが重要である。そこで以下のような研修会を、学校や地域で開くことが必要になってくる。



(研修の例)

- ①調査結果を受け、学校や地域において、正答率が低い問題や無解答率が高い問題を参加者全員で解く。
- ②「解説資料」「調査結果資料」中にある問題についての解説や解答類型等を読む。
- ③上記①②から、何が指導の重点になるのかを協議する。

②自校採点や各地域での採点

- ・上記①の研修をより効果的なものにするために、正式な結果を待つのではなく自校や各地域で採点を行うことも一考すべきである。採点することで、一人一人の定着状況を把握・分析し、個に応じた指導に生かすことができ、授業改善が促進されるという利点がある。
- ・また、採点を通して、学習指導要領を踏まえた学習内容や、国がどのような学力を求めているのかを改めて知ることができる。
- ・自校や地域で採点をするとき、特に留意すべきなのが、一部の人間のみで行わないということである。自校や地域の課題を知るには、対象学年の担任や教科担任だけでなく、基本的に全員で行うことが不可欠である。